

韓国/漢陽大学校/語学研修(2025年度夏期)

海外短期文化研修を通じて自分が学び得たもの

商経学部 ピエレット フィリップ

はじめに

私は2025年8月に韓国で行われた短期文化研修に参加した。もともと韓国語に関心があり、将来的に語学力を活かして国際的な環境で働きたいという思いを抱いていたため、この研修に応募した。しかし、出発前は大きな期待と同時に不安もあった。韓国語は基礎的な単語しか知らず、現地の人々と円滑に会話できるかどうか、また生活習慣の違いに適応できるか心配であった。それでも、自らを新しい環境に置き、実際に体験することでしか学べないことがあると考え挑戦を決意した。

本レポートでは、この研修を通じて自分が学び得たものを整理し、特に「コミュニケーション」「地域文化・生活」「自分自身の価値観」という三つの観点から考察したうえで、今後の学習や人生にどう活かしていくかを述べたい。

1. コミュニケーション

研修初日、私は言葉の壁に直面した。コンビニで交通カードを購入する際、韓国語が分からず翻訳アプリと英語を交えて意思疎通をしたが、相手の店員さんは丁寧に対応してくれた。この時、言語が不十分でも相手に伝えようとする姿勢と、理解しようとする心があればコミュニケーションは成立するのだと気づいた。

授業が始まると、少人数制のクラスで先生や仲間と韓国語を使う機会が増えた。最初は単語でしか答えられなかったが、次第に自己紹介や簡単な文章で会話できるようになり、大きな達成感を得た。また、メンターの学生との交流では、日本語を学ぶ彼らと互いに教え合いながら、文化を超えて友情が築かれた。特に「なぜ日本語を学んだのか」と尋ねた際、彼らが日本のアニメへの愛着を語ったことは印象的であった。また、私は「韓国料理やKPOPが好きで、韓国語を話せるようになりたい。」と言うと、喜んでくれた。言語は単なるツールではなく、相互理解の架け橋であることを実感した瞬間だった。

日が経つにつれ、店員に対しても韓国語で注文や質問をすることに挑戦した。初めは声が小さくなったり、間違いを恐れられたりしたが、「間違えても大丈夫」と授業で励まされたことを思い出し、勇気をもって話すようになった。結果として、笑顔で通じ合えた時の喜びは何物にも代えがたく、語学力の向上と共に自信が育まれた。研修終盤には、翻訳アプリに頼らずスムーズに注文できるようになり、先生から「自然な会話ができています」と褒められた。この経験を通じて、失敗を恐れず積極的に挑戦することこそが成長につながると学んだ。

2. 地域文化・生活

韓国での生活は、日本との違いに驚きの連続であった。例えば、寮のシャワーとトイレが一体型であることに初めは違和感を覚えたが、スリッパを購入して適応するなど工夫を重ねた。また、コンビニやスーパーで「1+1」のようなおまけ文化が浸透していることも新鮮であり、(ここでいう「1+1」とは、1つの商品を買うともう1つが無料で付いてくるキャンペーンのことを指す)人に与えることを大切にする国民性を感じた。

食文化の体験も印象深いと感じた。学食で食べたビビンバは毎回具材が異なり、日本で馴染みのあるものとは違う「混ぜご飯」としての多様性を知った。サムギョプサルでは肉の厚さや食べ方に驚き、冷麺をハサミで切って食べる習慣には文化の違いを強く感じた。また、パンチャンと呼ばれる小皿料理が必ず添えられる点からも、食事を「分け合うこと」を大切にする韓国の価値観が表れていると考えた。

生活習慣の面では、キャッシュレス決済の普及度に驚かされた。学食も洗濯機もほとんどがQRコード決済で、現金を使う場面はあまりなかった。さらに、車内での携帯電話による通話や、通りすがりに会釈をしないといった行為は、日本では「マナー違反」とされることが多い。しかし韓国ではそれらが日常の一部として受け入れられており、この経験を通じて、自国の常識が必ずしも普遍的ではないことを実感した。

また、フィールドトリップで体験したソンピョン作りやチヂミ、マッコリなどの伝統的な食文化は、本などの学習だけでは得られない貴重な経験であった。みんなで餅を作り笑い合う時間は、韓国の文化が「共同体の温かさ」に根差していることを実感させてくれた。

3. 自分自身の価値観

研修を通じて、最も大きな変化は自分自身の価値観にあった。出発前の私は計画的である一方、不安になりやすく、失敗を極端に恐れる完璧主義の傾向があった。しかし、韓国での生活は思い通りにいかないことの連続であり、間違いや失敗を経験するたびに「それでも大丈夫」と思えるようになった。例えば、発音を間違えて意味が伝わらなかった時でも、先生や友人が笑顔で訂正してくれ、失敗を恐れず挑戦することの大切さを教えてくれた。

さらに、自分が「環境適応力のある人間」であることにも気づいた。初日は不安でいっぱいだったが、数日経つと電車の乗り換えや買い物も問題なくできるようになり、慣れと同時に工夫して問題を解決する自分に気づいた。これは今後、未知の環境に挑戦する自信となると思った。

また、友人やメンターとの交流を通じて「一人で頑張るだけでなく、人と協力することで視野が広がる」ことも学んだ。特に、韓国の祝日「光復節」に出会い、自国を誇りに思う韓国人の姿を目の当たりにして、自分も日本そして母国に対する誇りを持ち、積極的に発信してもよいのだと考え直すきっかけになった。

研修最終日、最終試験で100点満点をとることができた。その瞬間、これまで積み重ねてき

た努力が確かな成果となって表れ、大きな達成感に包まれた。先生からも「授業を一番楽しそうに受けていた」と評価していただき、自分の成長を心から実感した。同時に「できる自分をもっと信じていい」という気持ちが芽生え、この 20 日間は単なる語学研修ではなく、自分を見つめ直し、可能性を広げる大きな転機となった。

おわりに

今回の海外短期文化研修を通じて、私は言語力の向上だけでなく、異文化を理解する柔軟性や、自分自身を信じる力を身につけることができた。コミュニケーション面では、翻訳アプリや英語に頼っていた自分が、積極的に韓国語で会話できるようになり、相手との心の交流を実感できた。地域文化・生活の面では、日本との違いに驚きつつ、それを受け入れることで視野が広がった。そして自分自身の価値観の面では、完璧主義から一歩抜け出し、不安に負けず挑戦し続ける姿勢を学んだ。

今後は、この経験を大学での学習に活かし、語学のみならず多角的な知識を積極的に吸収したい。また、将来は国際的な場で異文化理解を持った人材として貢献できるよう努力を続けたい。さらに、人生全般において「不安に負けずまずは行動する」という姿勢を忘れず、新しいことに挑戦し続けたいと考えている。

20 日間の研修は短いようで非常に濃密な時間であり、私にとってかけがえのない経験となった。この学びを次の挑戦へとつなげ、今後の成長の糧としていきたい。